



大同特殊鋼株式会社  
2025年度第1四半期決算説明会  
質疑応答（要旨）

開催日 2025年7月28日（月）  
出席者 取締役常務執行役員 梶田 聡仁  
取締役常務執行役員 岩田 龍司  
執行役員経営企画部長 岸 幹根

- Q. 生産アロケーションに伴う一時的な費用や為替影響について教えてほしい。
- A. 生産アロケーションに伴う一時的な費用については、第1四半期に17億円発生したが上期業績予想24億円に対して概ね計画通りである。第2四半期に残り7億円程度発生するものと理解いただきたい。為替影響については、上期業績予想は為替レートを140円/\$で想定したが第1四半期は145円/\$程度の水準であり影響は半減されたイメージである。第2四半期は為替レートの想定を変えていないため第1四半期対比マイナスになると見ていただきたい。
- Q. 上期業績予想を修正していないため、第1四半期の実績を踏まえると第2四半期はかなり落ち込むように見えるがどのように捉えればよいか教えてほしい。
- A. 第2四半期は第1四半期対比、夏季備蓄対応影響で10億円程度のマイナス（第1四半期にプラス5億円の反動）や第1四半期への前倒し出荷影響で7億円程度のマイナスがあると想定している。これらマイナス要因はあるが、今のような環境が続けば上期全体の業績は上振れするものと想定している。ただし、どの程度上振れるかについては米国関税影響など非常に判断しづらい。
- Q. セグメント別に足元の状況等を教えてほしい。
- A. 特殊鋼鋼材については、数量的にそれほど多くない状況下である程度の利益が確保できた。日系自動車メーカーの生産規模、販売状況にもよるが、今の状況が維持されることを前提にすると、この水準利益が続くと想定している。機能材料・磁性材料については、昨年度に比べると少しトーンダウンしているように見えるが、半導体製造装置向けステンレス鋼の数量が徐々に戻りつつあり内容的に高品位のものであるので、利益は上積みされていくと想定している。自動車部品・産業機械部品については、オイル&ガス以外のセクターは船用バルブ、エンジンバルブなど堅調に推移しており、この状況が続けば利益は上積みされていくと想定している。エンジニアリングについては、四半期ごとの利益に段差が出るので年間で20億円程度の水準と見ている。流通・サービスについては、今の利益水準が続くと見ている。
- Q. 米国関税が15%で決着したが業績への影響について教えてほしい。
- A. 顧客がどのように受注環境を考えるか、サプライチェーンを構成していくのかが現時点で明確になっていないため、当社としても現時点で影響を把握するのが難しい。顧客との会話を通じてしっかりキャッチア

ップして次の開示に向けて準備したい。

Q. 今期の業績見通しについてコメントできる範囲で教えてほしい。

A. 米国関税影響が見えていないため想定するのは非常に難しいが、第1四半期対比で特殊鋼鋼材は横ばい、機能材料・磁性材料、自動車部品・産業機械部品は上振れると考えており、調整後営業利益で四半期100億円以上を目指していきたい。

Q. 自由鍛造品の航空機向け、船用バルブ向けの需要動向について教えてほしい。

A. 航空機向けについては、前回の決算説明会で受注が戻り始めていると説明したが、それに対して足元若干ではあるが上振れている状況にある。船用バルブについては、中国の造船数が過去最高の水準にあるということを受けて受注は好調である。

Q. 半導体製造装置向けステンレス鋼について米国関税の駆け込み需要があるかなど需要動向を教えてほしい。

A. 米国関税の駆け込み需要はなく、在庫調整が少しずつ解消されつつあるという状況にあるが、当社が期待するレベルには届いていない。

Q. 配当について現時点の考えを教えてほしい。

A. 現時点では開示した上期16円/株から変えていない。今後、下期の業績見通しも踏まえて配当性向をどの水準にしていくかなどしっかり考えていきたい。

本資料に記述されております業績見通し等の数値につきましては、現状で判断しうる一定の前提に基づいております。

今後発生する状況の変化によっては異なる業績結果となることも予想されますので、投資等の判断材料として全面的に依拠されることは差し控えていただきますようお願いいたします。

また今後予告なしに予想数字が変更されることがあります。本資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、各自の判断と責任において使用されるものであり、本資料にある情報の使用による結果について、弊社は何らの責任を負うものではありませんのでご了承ください。